

## 2. 革新的省エネルギー機器の実証事業

### 2.1 平成 27 年度結果

#### 2.1.1 事業目的

省エネ対策の抜本的強化が必要となる中で、我が国の最終エネルギー消費の約 2 割を占める運輸部門の省エネルギー対策を進めることは重要である。

このため、省エネルギー型トラック運送の実証（革新的省エネ機器の導入事業）を行い、事業用トラック（いわゆる営業用トラック）に係る事業者が行う革新的省エネルギー機器の効果を実証し、得られたデータを元に総合的な評価制度を構築し、将来的には省エネ法の判断基準等を通じて、省エネ型運送の普及を促進し、早期かつ確実にトラック輸送の省エネルギー化を図ることを目的としている。

#### 2.1.2 平成 27 年度補助スケジュール

平成 27 年 5 月 19 日	平成 27 年度省エネ型陸上輸送実証検討会
平成 27 年 5 月 29 日	事業の公募要領の公表
平成 27 年 6 月 15 日～30 日	導入補助公募期間（16 日間） ※ 1 次公募
平成 27 年 8 月 17 日～31 日	導入補助公募期間（14 日間） ※ 2 次公募
平成 27 年 10 月 9 日まで	1 次公募の中間報告 （データ取得期間は機器装着前後実働 20 日間以上）
平成 27 年 12 月 21 日まで	2 次公募の中間報告 （データ取得期間は機器装着前後実働 20 日間以上）
平成 28 年 2 月 22 日まで	1 次及び 2 次公募の実績報告 （11 月、2 月の季節データの取得期間は実働 7 日間以上）

#### 2.1.3 平成 27 年度補助金交付結果

・ 公募予定額 金 額：約 70,000,000 円
・ 総申請数 件 数：8 件 金 額：35,575,000 円
・ 補助金交付件数 件 数：8 件 金 額：35,574,650 円

## 2.1.4 事業実施結果

### (1) 対象車両

単位：車両台数（台）

最大積載量	幹線輸送	集配輸送	2地点間輸送	その他	計
～2 t 未満	-	-	-	-	-
～5 t 未満	-	-	-	-	-
～10 t 未満	-	-	-	-	-
～20 t 未満	-	-	-	-	-
～25 t 未満	13	4	2	-	19
25 t 以上	2	-	-	-	2
計	15	5	2	-	21

※太陽光発電アイドリングストップ機器装着：3社（6台）

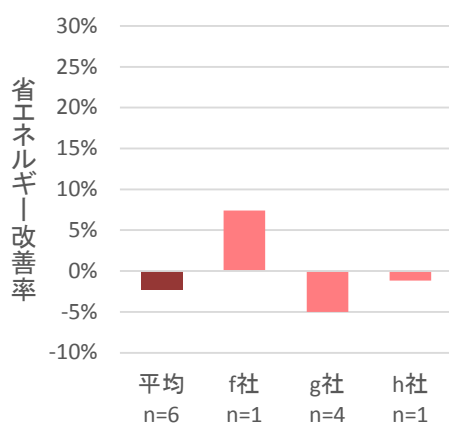
外部給電式冷凍・冷蔵システム機器装着：5社（15台）

### (2) 省エネルギー改善率

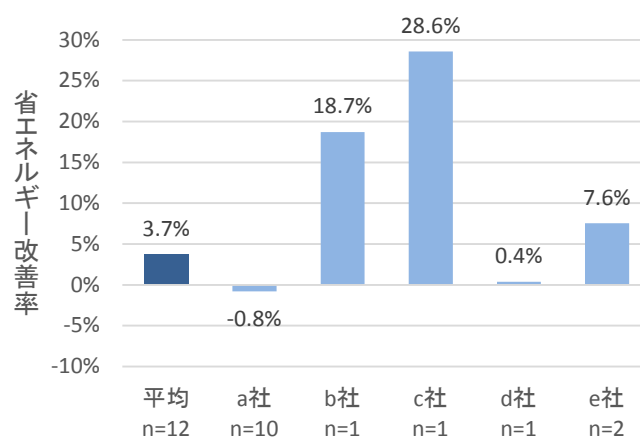
#### ① 装着前後の省エネルギー改善率（平成27年度、事業者別）

- ・平成27年度事業における太陽光発電機器の省エネルギー改善率の平均は-2.3%、外部給電式機器は3.7%。
- ・太陽光発電機器の改善率低下については、機器がクーラー電力の供給システムであることから、装着後データを取得した冬期は活用されないためと考えられる。

#### ■太陽光発電機器



#### ■外部給電式機器

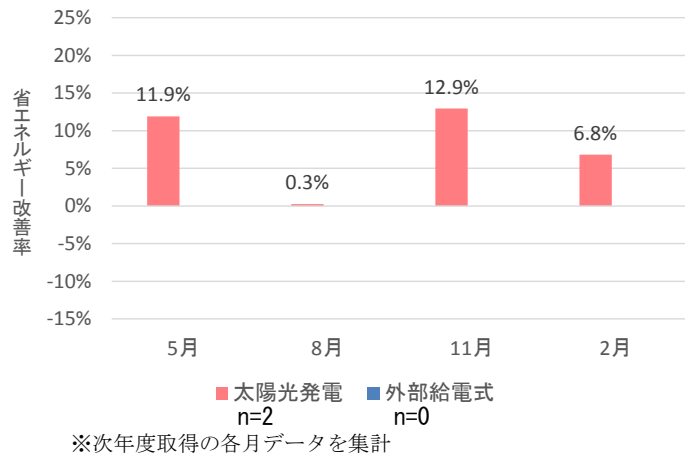


※省エネルギー改善率 = (車両入替後の実燃費 - 車両入替前の実燃費) / 車両入替前の実燃費

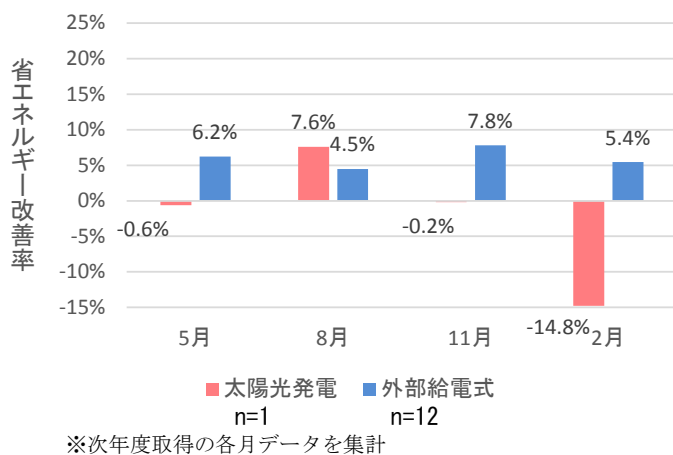
② 省エネルギー改善率の季節変化（平成 26～27 年度の月別平均）

- ・ 太陽光発電機器では、機器が活用されない冬期を除き、概ねプラスの改善率となっている。
- ・ 外部給電式機器では、冬期においても改善率の大幅な低下はなく、概ねプラスの改善率となっている。

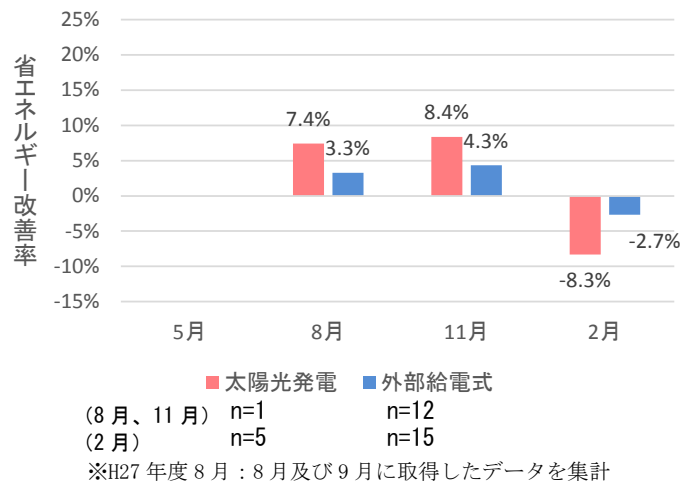
■ H25 年度



■ H26 年度



■ H27 年度



※省エネルギー改善率 = (車両入替後の実燃費 - 車両入替前の実燃費) / 車両入替前の実燃費

(3) 燃費への影響があったと考えられる事項（平成 27 年度補助事業者による報告）

- ・効果が得られなかった理由としては、太陽光発電機器・外部給電式機器ともに、運行形態の変化、及び冷蔵車冷凍車では運行形態の変化に伴う待機時間（アイドリング）の増加が原因と考えられる。
- ・大きく改善した理由としては、運行形態の変化の他、ドライバーの省エネ運転への意識や技術の向上が原因と考えられる。

■効果が得られなかった理由

（太陽光発電機器）

- ・積荷が増えたため。
- ・近場での配送に変わったため。（運行形態が変わったため）
- ・冷蔵等のためにエンジンを止められないため。（アイドリング時間の増加）

（外部給電式機器）

- ・ゴーストストップが多くなったため。（運行形態が変わったため）
- ・冷凍車のため、待機時間が長い場合に燃費が悪くなるため。（アイドリング時間の増加）

■大きく改善した理由

- ・積荷が少なくなったため
- ・高速使用に変わったため。（運行形態が変わったため）
- ・アイドリングストップを社内で奨励しているため。（エコドライブの実施）